

第2回検討会における課題への対応

平成28年11月22日

国土交通省 四国地方整備局

徳島河川国道事務所

第2回河道管理検討会における課題への対応

【1/2】

番号	課 題	対 応	資料頁
1	<p>【偏流と植生の関係】（第1回課題）</p> <p>○偏流の発生と樹林化の関係を示して欲しい。例えば、横断面図、航空写真及び植生図により、植生と地形変化を時間的、空間的に把握することにより、その応答関係を関連づけられるのではないか。</p>	<p>○西原箇所を事例として、樹林化と洪水、地形変化の関係を時間的、空間的に整理するとともに、砂利採取後S50と現在の横断面図の比較、縮尺の変更などを行い、より変化が詳しく分かるような整理を試み、植生と地形変化の応答関係を定性的に把握することができた。今後の個別事業の実施段階においては、測量データの3次元化など、より一層の時間的、空間的な植生・地形変化の整理を行い、応答関係の定量的な把握に努める。</p>	2-60 ～2-72
2	<p>【偏流箇所の竹林の地下構造】 （第1回課題）</p> <p>○西原箇所では、竹林の地下構造が砂地盤となっており、この地下構造が侵食を助長しているのであれば、他の偏流箇所における竹林の地下構造を調査すべきではないか。</p>	<p>○偏流箇所のうち、竹林が繁茂している市場、川島箇所の地下構造を調査したところ、西原侵食箇所と比べ下層部に礫分が多い地下構造になっていることを確認した。</p>	市場箇所 3-91 川島箇所 3-134
3	<p>【支川の土砂流出による影響】</p> <p>○西原箇所の偏流の影響は川田川、伊沢谷川からの土砂流出なども影響していると考えられる。支川からの土砂流出なども要因として考えられるのではないか。</p>	<p>○支川の土砂流出量については現時点では明確に把握できていないが、地質条件から見る土砂移動の可能性、洪水時における土砂移動の想定、経年的な土砂の変遷状況について整理を行い、要因として追記した。</p>	2-49 ～2-57
4	<p>【西原箇所における対策工の総合評価】</p> <p>○対策工案の総合評価における指標の優先順位など、判断の基準について明確化するべき。</p>	<p>○対策工案の総合評価は、河岸侵食の改善効果及び対策コストを重視し最適策を抽出するとともに、偏流は正効果や対策効果の持続性の観点を踏まえ優位性を確認する旨を記載し、判断基準の明確化を行った。</p>	2-100

第2回河道管理検討会における課題への対応

【2/2】

番号	課 題	対 応	資料頁
	○また、総合評価判断基準の河岸侵食の改善効果など根本的な原因が解明されていない中、不確実性を前提に対策を進めなければならないことに触れておくこと。	○偏流による直接的な河岸侵食や樹木・植生の生長に伴う地形変化について不確実性があることを記載するとともに、今後の課題として、侵食被害の要因分析の精度向上、計算モデルの技術水準向上、対策効果の検証、モニタリングの視点について追記した。	2-101 ~2-102
5	<p>【侵食リスクが高い箇所の抽出フロー】</p> <p>○偏流におけるリスクが高い箇所の抽出においては、河床の形状だけでなく、実際の偏流実績や計算から、洪水時の河岸に対する流向について評価すべきではないか。</p> <p>○局所洗掘や偏流が直接の要因でないが高水敷が無い箇所で高速流による堤防の侵食が発生している事例があることから、侵食リスクの抽出及び評価フローに加える必要があるのではないか。</p>	<p>○洪水時における河岸に対する流向について、西原箇所での平面流況計算結果から閾値を定めて抽出基準として追加し、抽出及び評価フローを修正した。</p> <p>○上別宮における過去の侵食被害の実績を踏まえ、堤防構造の耐流速と洪水流速の関係から評価するリスクを指標として加え、抽出及び評価フローを修正した。</p>	2-103
6	<p>【西原箇所周辺の樹木の繁茂状況】</p> <p>○伊沢谷川河口の樹木の状況として、大きな木は、オオタチヤナギやヨシノヤナギが多く、ジャヤナギやアカメヤナギはあまり多くない状況であった。</p>	○国勢調査の整理上、アカメヤナギが混生しているため、「ジャヤナギーアカメヤナギ群集」という表記となっているが、現地を確認したところ、流況に影響を及ぼすような高木としてご指摘のあったヤナギ類も多く確認されたため、樹林化の状況として追記した。	2-68